

私たちの町の文化財

■第一話 第2話 万日塔と万日山

万日山の南東側斜面に万日塔という大きな石碑が3基あります。1万日間、念仏を唱え続けた記念に立てられたモニュメントです。

江戸時代の書物「肥後国誌」によれば、ここには万治2年（1659年）に建てられた如意庵（にょいあん）という浄土宗の小寺院があって、1万日間、昼夜にわたって念仏を唱えていたとあります。寺で念仏を唱えるのは当たり前ですが、昼夜、唱え続けるというのは大変なことだったでしょう。3基の万日塔は、天和4年（1684年）、宝永8年（1711年）、享保21年（1736年）に立てられています。それぞれが1万日間ですから、合計3万日間＝約80年間にわたって念仏が唱え続けられたことになります。気の遠くなるような大きな行事だったといえます。それぞれの万日塔には、導師とされる歴代の和尚をはじめ、一門の僧侶の名前が刻まれています。注目されるのは「鍛冶屋浄深」、「伊勢屋浄截」、「八百屋重衛門」、「酢屋太郎衛門」など、多くの町人の名前もあります。僧侶だけでなく、城下の町人達が、この念仏を唱える行事に参加し、さらには塔を立てる費用を出資していたのです。

如意庵の念仏、そして万日塔の造立。当時、それは大きな評判になっていたのでしょう。このことがあって、それまでの阿弥陀寺山が、現在の名前である万日山と呼ばれるようにもなったのですから。

熊本市文化振興課 美濃口雅朗氏

一基の塔あたり、約二十七年五ヶ月もの長期間、途切れることなく昼夜にわたって念仏を唱え続けるって、すご過ぎるモン

